

産山学園便り

夢創造

平成30年9月14日(金) no.15 文責：上田

▶今年のガードレール清掃は、小雨で活動場所も限られましたが、中学部生らしい真剣さが感じられました。



親子関係は？

～国立青少年教育振興機構調査結果～

先頃、国立青少年教育振興機構が、日本・アメリカ・中国・韓国の4カ国を対象にし実施した「インターネット社会の親子関係に関する意識調査」結果を発表しました。結果を報道した雑誌には、『親を尊敬4カ国中最低』『家族団らん中に6割がスマホ操作』などの見出しがありました。

日本の子育ての特徴として「ほめるより叱る」がよく指摘され、子どもの自己肯定感が低い一因だと言われますが、実際はどうでしょうか。調査結果では、「保護者は私を時々叱る」という項目で「そうだ」と回答した割合は小学生60.9%中学生58.1%で4カ国中1位、「保護者は私を時々ほめる」という項目では小学生58.5%中学生43.3%でこちらも4カ国中1位でした。日本の保護者は必ずしも叱るだけの子育てをしているわけではありませんでした。

一方、「家族が一緒にいてもそれぞれが自分のスマホを操作している」ことが「よくある」「たまにある」が小学生57.5%中学生65.0%と、親子で各人がスマホでSNSなどをしているという光景が浮かんできました。

調査を行った機構は「日本では深くコミュニケーションに切り込まないで、和を保つ傾向が文化的にある。家族が一緒にいる時のコミュニケーションが、他の国に比べると表面的になりやすい」と分析しています。表面的なコミュニケーションしかしていないのが、日本の家族の実像？なのでしょうか。

子どもが話そうとすると、「忙しい」「時間がない」などと返されていませんか。子どもと接する余裕がないかもしれませんが、もし、スマホが手にあるのであれば、スマホを離して、子どもの話を聞くことはできそうです。

子どもヘルパー 笑顔が輝いています

先日、中学部のガードレール清掃が行われる前、「『ありがとう』と言われたらどう返しますか？」と尋ねると、子どもたちは答えに窮した表情を見せ、しばらく待っていると、「どういたしまして」「笑いを返します」などの声が聞かれました。その後、「『ありがとう』言われたら、私は、相手が自分のよいところに気づいてくれたことに『ありがとう』と返します」と話しました。

産山学園では、様々な地域貢献活動が計画・実施されています。先週は子どもヘルパー活動が実施されました。熊日新聞でも紹介されたとおり、子どもたちとお年寄りとの笑顔の交流ができました。「ありがとう」とお礼を言われた子どもたちは、笑顔で学びの機会を得たことに「こちらこそ、ありがとうございます」と返していました。奉仕は心に届くものでなくてはならないと、子どもたちに教えられました。